

## 共同募金・日赤募金の使いみち（札幌市関係）

### （共同募金の仕組み）

共同募金は、市・区・地区社会福祉協議会が実施する在宅福祉サービス事業や、敬老事業、ボランティア育成事業、児童の事故防止、青少年の健全育成などに生かされる。共同募金は、地域の福祉団体からの助成申請をもとに助成計画を策定し、地域ごとに課題解決に必要な使いみちの額を事前に決めてから寄付を募る計画募金である。募金の概ね7割が募金された地域で使われ、残りの3割が広域での活動や災害時の備えなどに使われている。

#### （令和5年度共同募金実績）

札幌市全体の募金額 72,561,242円    うち町内会等の戸別募金 57,201,752円  
 東区全体の募金額     9,463,314円    うち町内会等の戸別募金    7,814,400円  
 栄東地区の募金額     1,093,020円    うち町内会等の戸別募金    1,027,000円

※町内会等以外は、街頭募金や法人募金

### （令和5年度共同募金の使いみち）7割が札幌市内の福祉事業へ

- 栄東地区社会福祉協議会への支援 173,000円

老人クラブ支援、栄東地区の民生委員・児童委員、高齢者健康づくり事業への支援など、地区社協の事業に活用されている。

- 栄東地区福祉のまち推進センターへの支援 80,000円

秋に実施している一人暮らし高齢者のふれあいお食事会に活用

- 共同募金活動費 88,000円（共同募金会栄東支部に交付）

街頭募金の資材、分区の活動費、募金のための事務費に充当

合計 341,000円（町内会の集めた募金の33.2%が地域の活動、福祉事業に還元）

- 札幌市内での共同募金の使いみちは次のとおりです。

活動の名称	金額	割合
1 高齢者支援事業	9,119,000	15.8%
2 児童青少年・母子支援事業	287,000	0.5%
3 地域福祉活動支援事業	32,529,000	56.4%
4 高齢者団体支援事業	6,486,000	11.3%
5 障がい児・者団体支援事業	1,280,000	2.2%
6 地域福祉活動団体支援事業	1,401,000	2.4%
7 児童青少年・母子団体支援事業	1,221,000	2.1%
8 障がい児・者施設支援事業	328,000	0.6%
9 歳末地域福祉活動支援事業	4,825,000	8.4%
10 歳末障がい児者支援事業	175,000	0.3%

※令和5年度の実績は集計中のため、数値は概数

※地区社協や福まちへのへの支援は、地域福祉活動支援事業に含まれる

## (日赤募金の仕組み)

赤十字は、「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界 191 の国と地域で活動する組織。日本赤十字社は、その構成法人である。主な活動としては、災害や大事故などが発生したときの国内外の災害救護、赤十字病院の運営、輸血を必要とする方を支援する血液(献血)事業、救急法等の講習のほか、社会福祉事業などの幅広い活動を行っている。

### (令和 5 年度日赤募金実績)

札幌市全体の募金額 87,121,458 円

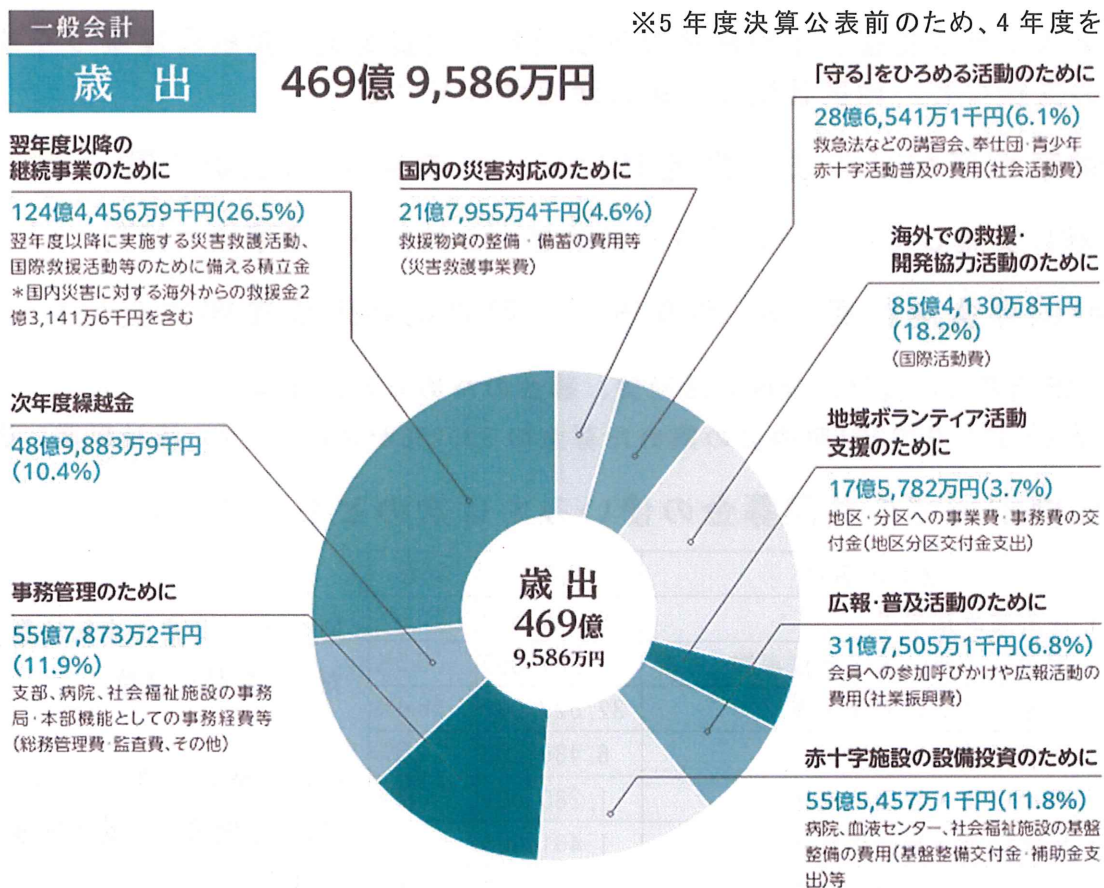
東区全体の募金額 5,710,620 円 うち町内会等の戸別募金 5,290,220 円

栄東地区の募金額 512,500 円 うち町内会等の戸別募金 512,500 円

### (令和 4 年度一般会計決算にみる日赤募金の使いみち)

日本赤十字の一般会計事業は、全国で他収入を含めて一般会計で約 469 億円の収入がある(うち募金など 335 億円。**栄東で募金した分を含む**)。

事業は国内の災害救護事業 22 億円、社会活動(救護などの講習、地域包括ケアの支援、地域づくり) 28 億円、国際活動(アフリカ食料危機、中東人道支援、バングラデシュ難民支援、インドネシア防災支援) 85 億円などを実施している。



※ほかに災害の都度義援金などを募集。令和 4 年度 8 億 3,443 万円が、国内の豪雨災害、台風災害などに配分。歳入として社資は計上されないが、医療施設事業、血液事業、社会福祉事業など、全会計事業費は、1 兆 5,357 億円である。